



（なんぷう）
南風

【題字】南
クワ初代理事長

発行所
鹿児島市田上八丁目
21番3号
学校法人 南学園
鹿児島医療福祉
専門学校
TEL (099) 281-9911

「ONE TEAM なんぷう」

学校長 杉元 羊一



今年の国民スポーツ大会の開催地が青森県と聞いて、実に懐かしく感じました。それは、前回の青森国体開催が昭和五十二年（一九七七）、私の教員採用の年であり、鹿児島県教職員ラグビーフットボールチーム（十五人制）の一員として国体出場（九州代表）を果たしたからです。代表権を得るまでの合宿、遠征、予選大会、勤務校でのラグビー同好会の立上げなど、教員一年目の記憶は、ラグビーに色濃く染まっています。因みに、現在、本校「いふく」に、当時のチームの先輩方のお孫さんが二人、在籍し、御縁が続いていることは実に感慨深いことです。

ラグビーは、十五人制で言えば、ポジションやメンバーが多

く、全身をぶつけ合う競技の特性などから、安全対策を含めたルール内容に特色があります。また、「No Side」「All for one, One for all」「ONE TEAM」などの言葉がよく知られています。これらは、スポーツ以外の様々な分野でも引用されますが、社会生活で求められる高い精神性に通じているからでしょう。

さて、高齢化が進むわが国では、認知症を伴う疾患のある患者様などが増加し、医療だけでなく、介護・福祉サービスを含めた包括的な支援が求められています。そのため、医療を含めた多職種連携のチーム編成の役割やニーズが一層高まっています。一方、メンバーが多職種にわたり多数となり、連携上の課題も浮上し、現在、医療現場等に特化したチャットやメッセージングシステムなどのICTツールの開発が進んでいます。「いふく」は、今後とも、進化が求められる多職種連携チームの有用な人材育成に向けて、

引き続き、他学科との合同授業、専任教員による他学科での授業の充実などに取り組めます。また、本年度から新たに、助産学科と看護学科が連携した『助産師応援セミナー』を企画し、第一回目は五月、助産学科教員によるガイダンス、両学科の学生による意見交換、演習の見学など、充実したスタートとなりました。一方、高度な介護福祉専門職を養成してきた介護福祉学科は募集停止となりましたが、

今後は隣接のデイサービスセンター「リハプラザふれんどみなみ」との連携の一層の充実を図り、介護福祉への関心と理解を高めていきたいと思っています。また、ICT活用の一環として、学科・クラス内でのチームス活用、教育相談方法としてのメール相談などを取り入れているところでは、

「ONE TEAM」には、連動するキーワード「Same Page」があります。チームのメンバーが試合の各局面で「同じ景色を見る」すなわち、これからの勝利に向けた試合展開を全員が同じように想定し、目標達成のために各人がそれぞれの役割を果たすことを意味します。

今後とも「いふく」においては、建学の理念「真愛」の下、各学科での専門性の高い学びや特色ある学校行事などを基礎としながら、「Same Page」を共有し、「ONE TEAM」として医療福祉分野で活躍できる人材の育成に積極的に取り組んでまいります。

感謝と決意

卒業式

三月四日、暖かな冬晴れの下、鹿児島サンロイヤルホテルで卒業式が挙行されました。

多くの保護者、教職員に見守られる中、看護学科四十七名、歯科衛生学科二十五名、理学療法学科五十一名、介護福祉学科十二名、助産学科十七名の計一五二名に卒業証書が授与され、本校を巣立っていきました。

卒業生を代表して、看護学科の野口恵佳さんは「実習で受け持たせていただいた患者様やご家族、そして厳しくも温かく導いてくださった指導者の方々への感謝を忘れません。常に一人ひとりの心に寄り添い、真摯に向き合える医療従事者を目指し



てまいります。この三年間で培った知識と経験、そして仲間とともに歩んだ日々を力に変え、責任と誇りを胸に、それぞれの道を切り拓いていく決意です。」と述べました。

志を新たに

入学式

四月七日に入学式が挙行され、看護学科四十六名、歯科衛生学科四十名、理学療法学科五十九名、助産学科十七名の計一六二名が入学しました。

新入生代表、歯科衛生学科の谷川和花さんは「学びの道においては、数々の困難が待ち受けていることでしょう。しかし私たちはそれら一つ一つにしっかりと向き合い、同じ志を持つ仲間たちと助け合い、協力しながら成長の糧に変えていく決意です。」この三年間で専門的な知識や技術はもちろん、協調性やコミュニケーション能力を身につけ、患者さんに安心を与えら



看護功労者

知事表彰を受賞

（令和八年五月十四日）

この度、本校の濱川副学校長が、看護功労者知事表彰を受賞しました。

看護功労者知事表彰とは、長年にわたり看護業務に尽力し、地域医療への多大な貢献が認められた看護職員を称える表彰です。本校としても大変喜ばしく、また誇りに感じます。

副学校長 濱川 光代

このたび看護功労者知事表彰を賜りましたこと、身に余る光栄であり感慨無量の思いでございます。大きな業績もない私がこのような賞をいただくことを大変恐縮に存じながら、有難くお受けいたしました。また、関係者の方々より温かい祝福の言葉を賜り誠にありがとうございます。

私は三十路を過ぎてから看護を学び、多くの方々との出会いに導かれて、今此処に至っております。これもひとえに看護の諸先輩方や職場の方々のご指導ご支援あつてのことと心より感謝を申し上げます。これまでの歩みを振り返りますと、特別な事を成し遂げたわけではなく、自分の目指すこと、置かれた場所で行うべきことを地道に続けてきたように思います。本校に勤務して約二十四年、学生さんと共に学び合えたことが私の心の支えと原動力になっています。改めて卒業生や在校生に心からお礼を申し上げます。

微力ながら、今後とも学園の発展と看護の向上のために尽力してまいります。



新入生歓迎会

(令和8年四月十八日)



助産学科
田之上 さくら



理学療法学科
一年 塩津 優大

全学生で実施する歓迎会は、毎年盛り上がる人気行事です。参加した学生の声を紹介します。

四月に新入生歓迎会があり、学級対抗で綱引きを行いました。これまで助産学科は一勝もしたことがないと聞いていたため、綱引きの経験がある学生を中心に作戦を練って臨んだ結果、優勝をつかみ取ることができました。助産学科史上初の優勝を私たちの代で達成できてとてもうれしかったです。私は本校の看護学科出身ですが、これまで入賞したこともなかった中で、今回がいちばん思い出に残る新入生歓迎会になりました。また、助産学科は年齢層が幅広く県外出身の学生もおり、入学直後に仲を深められるととてもいい機会になったと思います。

私は新入生歓迎会に参加して、多くのことを学ぶことができました。初めての学校行事ということで最初は緊張してしまいましたが、先輩方や先生方が優しく声をかけて下さったおかげで、少しずつ不安がなくなりました。

これから一年間、多くの課題や実習で忙しい生活が続きますが、励まし合いながら十七人全員で素敵な助産師になれるように頑張ります。

歓迎会では、レクリエーション活動が行われました。レクリエーションの綱引きでは、仲間と協力しながら取り組んだ結果、男子の部で見事優勝することができました。歓迎会を通してたくさんの人と交流する良い機会になりました。初めて話す人も多かったですが、活動を通して会話ができて、友人を作ることができました。また、先輩方から学校生活や勉強そして実習のことを聞くことができ参考になりました。今回の新入生歓迎会を通して人とのつながりの大切さや協力することの重要性を改めて感じました。これから、仲間と助け合いながら学習や学校行事に取り組み、充実した学校生活を送っていききたいと思っています。



宿泊研修

(令和8年5月14~15日)

医療の専門職を目指す者としての心構えなどを学ぶ新入生研修を通して、将来に向けて歩き始めた学生たちは、多くのことを学び、感じ取りました。



新入生宿泊研修を終えて



理学療法学科一年 中村 花凜

私は新入生宿泊研修を通して、人との関わり方や社会での生き方について多くのことを学びました。

消費生活講座では、「契約」について学びました。契約を結ぶ前によく考えることの大切さや、若者を狙った悪質商法への注意点を知り、今後の生活に役立つ内容だと感じました。

野外活動では、他学科の学生やクラスメイトと協力してアスレチックに挑戦しました。最初



「新入生宿泊研修」に参加して
歯科衛生学科一年 川口 絢音

は、普段あまり関わることのない他学科の人たちとグループを組み、数時間活動をしました。最初は初対面の人が多く緊張していましたが、活動を通して少しずつ会話が増え、自然と打ち解けることができました。グループで協力しながら行動することで、相手を思いやることや、声を掛け合うことの大切さを実感しました。また、研修では消費生活講座、ホスピタリティマインド、キャリアアガイダンス、よい人間関係をつくるという内容の講義を聞きました。消費生活講座では、契約やお金に関するトラブルについて学びました。普段はあまり深く考えることがありませんでしたが、軽い気持ちで行動すると大きな問題につながることもあると知り、自分自身でも注意しなければならなかったと感じました。

ちとグループを組み、数時間活動をしました。最初は初対面の人が多く緊張していましたが、活動を通して少しずつ会話が増え、自然と打ち解けることができました。グループで協力しながら行動することで、相手を思いやることや、声を掛け合うことの大切さを実感しました。また、研修では消費生活講座、ホスピタリティマインド、キャリアアガイダンス、よい人間関係をつくるという内容の講義を聞きました。消費生活講座では、契約やお金に関するトラブルについて学びました。普段はあまり深く考えることがありませんでしたが、軽い気持ちで行動すると大きな問題につながることもあると知り、自分自身でも注意しなければならなかったと感じました。

は不安もありましたが、活動を通して自然と打ち解けることができ、学科や男女を越えて交流を深めることができました。将来、多職種と連携して働くうえでも大切な経験になったと思います。

また、キャリアアガイダンスやワークショップでは、さまざまな経験を積むことの大切さや、相手の考えを理解しながら協力することの重要性を学びました。

今回の研修で得た経験を今後の学校生活に生かし、将来は信頼される理学療法士を目指して努力していきたいと思っています。

た。キャリアアガイダンスでは、将来の進路や社会人として必要なことについて学びました。今から少しずつ自分の将来について考え、知っていることを広げていくことが大切だと感じました。また、学校生活での経験や日々の積み重ねが将来につながることを知り、毎日の授業や人との関わりを大切にしたいと思いました。より人間関係をつくる講義では自分からコミュニケーションを取るための大切さを学びました。実際に他学科の人たちと交流する中で、話しかけることで関係が深まり、楽しく活動できたため、講義の内容を実感することができました。今回の宿泊研修を通して、多くのことを学び、自分自身の成長につながる良い経験になりました。研修で得た経験や学びを忘れず、充実した学校生活を送れるよう努力していきたいと思いました。今回の宿泊研修に参加できて良かったと改めて感じました。

iPadでの学習を通して

本校看護学科では、デジタル教科書を利用して学習しています。デジタル教科書の利点などを、学生に尋ねました。



看護学科二年 高城 麻羽

iPadでのデジタル教科書利用には、多くのメリットがあると感じています。まず、私たちが使用する教科書類は、医学・看護などの専門書が約七十冊に加え、看護辞典や看護師国家試験問題集など多数あります。これらがiPad一台に収められているので、何冊も持ち運ぶ必要がなく通学が楽なことです。そして、iPadの中で複数の専門書を広げることができ、授業内容の確認や関連学習も行えるので知識の整理ができます。私は、重要なページにはブックマークやお気に入りに入れて、楽しく学ぼう工夫をしています。さらに、デジタル教科書は動画を使用できるので、教科書だけでは理解しにくい内容も動画や音声があることでイメージしやすくなります。

このようにデジタル教科書は手軽に役立てて理解度を深めることができるので、学習をより快適にしてくれていると感じています。

令和版・双方向授業

鹿児島からだ学習会代表・医師 徳留 京子



「これ、分かる人!」「はい!」という元気な声が教室に響き渡るの、どうやら小学校低学年までの風景みたいですね。今、令和の専門学校生たちは実に静かです。

わたしは二十年近く南学園で非常勤講師を務めています。ここ最近には特におとなしい学生さんたちが増えたという印象を持っています。しかし、九十分という長い時間を同じ教室で一緒に過ごしているながら、講師が一人で呪文のように講義を続けるのは、お互いにつまらないのではないかと、時々考えていました。

そこで、数年前からわたしの授業に導入しているのが「Googleフォーム」を活用したシステムです。まずは、講義の開始前にスクリーンに映し出したQRコードをスマートフォンで読み込んでもらい、前回の復習小テストをオンラインで解いてもらいます。回答の集計は、リアルタイムでわたしの端末に表示されます。全員が解き終ったところで、集計結果の円グラフをスクリーンで学生さんたちにも公開します。

誰がどう答えたのかはわからない仕様になっていますが、答えた本人は自分が正解なのか不正解なのかはすぐに分かります。ほとんどの人が正解している中で、不正解が自分を含めてごく少数であれば、心の中で(しまった!みんな意外と勉強して

いるな)と適度な焦りを感じることもあるでしょう。ある日、クラス全員が正解し、初めて正答率一〇〇%の美しい円グラフを達成したときは、クラス全体から自然と拍手が沸き起こり、教室に素晴らしい一体感が生まれました。

また休み時間には「何でも質問QRコード」をスクリーンに掲示しておき、匿名で文字通り「何でも」質問できるようにしています。「脳死と心臓死の違いをもう一度説明してほしい」「どうやったら記憶が定着しますか」といった真面目な学習相談から、「先生はいつから医師を目指していましたか」、時には「初恋はいつでしたか」など、こちらが思わず照れてしまうような質問もどんどん飛んできます。

休み時間が終わったら、「えー、こんな質問が来ています。まず一つ目は……」と、まるでラジオ番組のDJになったかのような回答タイムが始まります。学生さんたちはわたしの回答を真剣に聞きながら、時には歓声が上がったり笑いが起こったりと、教室全体がとても和やかな雰囲気になります。

一見静かに見える令和の専門学校生も、本当は手を挙げて答えたり、色々な質問をしたりして、もともと授業に参加したいんです。講師は「学生の理解度を知りたい」、学生は「講師のことをもっと知りたい」、そんなお互いのニーズがデジタルの力を借りることでパチッとハマっているのやう方が、わたしはとても気に入っています。これからも、学生の皆さんと心で対話できるような、楽しい授業を作っていきたいです。

放送大学での学び

本校では、放送大学と提携することで、最短四年で大学卒業の資格(学士)を取得できる制度を設けています。(図参照)
また、本校教職員も、自己研鑽や学術探求を目的に放送大学で学び続けています。



助産学科 専任教員 春田 美由紀



看護学科 一年 大石 愛純

昨年度から本校の専任教員として入職させていただき、このたび、放送大学にて教育について学ぶ機会をいただきました。

「心理と教育」コースの四科目を履修し、今まで本格的に学んだことのない心理学・教育学・社会学について、難しいながらも大変興味深い授業を受けることができました。

心理学分野では、人の行動や認知を客観的に捉える視点や、データをもとに考察する方法について学びました。また、教育分野では、現代の教育制度や教育政策のしくみ、大学を取り巻く社会的背景などについて理解を深めることができました。

日々の業務と並行しての学習は容易ではありませんでしたが、多様な視点に触れることで自分の視野も広がり、自身の教育実践を振り返るよい機会ともなりました。

今回の放送大学での貴重な学びを、これからの学生指導や授業など幅広い教育活動に活かしていきたいと考えています。

看護の勉強に励む毎日ですが、私には「ダブルスクール」というもう一つ学びの場があります。

放送大学は通信制の大学でテレビやインターネットを通じて受講でき、スキマ時間や休日を活用し、自分のペースで学べる点が一番の魅力です。両立は大変ですが、秘訣は「計画性」です。学習時間と課題提出期限を管理し、分からないことは復習を繰り返して、着実に自分の知識として蓄えるよう努めています。

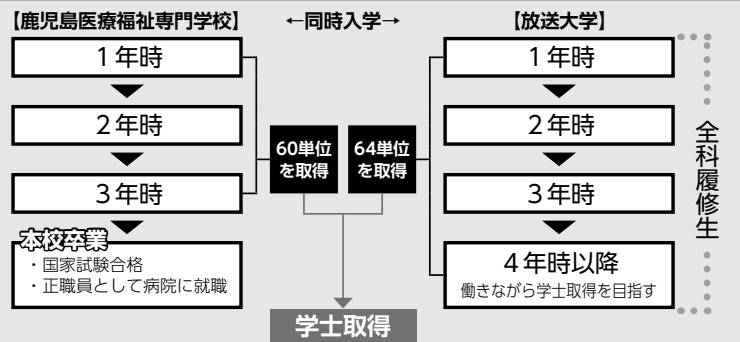
また、自分の興味に合わせて看護以外の分野を深く探究できること、学費を抑えて大学卒業の資格取得(学位)を目指せることも、専門学生にとっては大きなメリットです。「看護師」という目標に向かって進む中で、「学士」の資格取得を目指すことが、専門職としての深みを増すことに繋がると信じています。少しでも興味のある方は、ぜひ挑戦してみたいかがでしうか。自分の可能性を広げる新しい学びが得られるはずです。

放送大学との連携で大学卒の資格(学士)取得も可能。

放送大学のメリット

- ①将来を見据えた学習… 大学院への進学や就職後のステップアップなど、将来の選択肢が拡大できます。
- ②幅広い知識の習得…… 専門学校である本校で即戦力となる技術・知識を身につけながら、放送大学ではより幅広い授業を受講可能です。
- ③安価な学費…… 4年間在籍した際の授業料は約35万円と経済的な学費で学士取得を目指せます。

希望者は、放送大学とのダブルスクールで、最短4年で大学卒(学士)の資格取得が可能に。ダブルスクール型(専修学校3年課程の場合)



※本校で得た単位のうち60単位を認定されるため、放送大学では残り64単位を取得することで卒業要件を満たすことができます。

第二回助産師応援セミナー開催

(令和八年五月二十七日)

本校の看護学科には、本校助産学科への学内推薦制度があります。そこで看護学科では、助産師の働き方や活躍について理解することにも、助産学科進学の準備を応援するセミナーを実施しています。



看護学科 三年 外園 千華

五月二十七日、参加を希望した十四人の看護学生を対象に助産学科で「助産師応援セミナー」が開催されました。私は中学生の頃、テレビドラマの中で産後の母子に寄り添う助産師の姿に感銘し、「助産師になりたい」という夢をもち本校に入学しました。助産師になるための学習はどのように行われるのかとても興味があり、緊張しながらも期待を膨らませ参加しました。

セミナーでは、助産師の仕事内容や役割、臨地実習等について先生方から詳しい説明があり、さらに、助産学科学生と交流し体験談を聞くこともできたので具体的なイメージが沸き、より深く理解できたと思いました。分娩介助の演習では、学生同士が教え合い知識や技術を高め合っている様子を見学し、助産師になるためには主体的に学び続ける姿勢が大事であり、支援体制も整っていると感じました。

今回のセミナーを通してあらためて、助産学科への進学の夢が確かな目標となり、学習意欲を高められたことに感謝いたします。



分娩介助演習での一場面

入学定員	20 人(女)	修学年限	1 年
試 験 日	2026年12月12日(土)		